2016年新潟県参議院選挙、知事選挙について
社民党新潟県連　渡辺英明氏インタビュー（10月16日）
磯貝順子氏同席
聞き手：座間宮ガレイ氏

座間宮　新潟県がここまでぐっと、参院選は2000票差、知事選は6万票差で、ここまで勝ったということと、逆に言えば自民党はものすごい悔しい経験したと思うが、今まで渡辺さんお経験された選挙でものすごく印象に残る選挙とか思い出とかありますか？

渡辺　1970 年代の志苫豊氏（県職員で労働組合運動を一生懸命やった人）が出馬した知事選　。あのときは2～3万票差で負けたが、共産党から新潟大学の学長をされた長崎さんが9万票取っていた。あの時になぜ共産党が出たんだというブーイングが市民からも出たことを思い出した。
当時自分は高等学校教職員組合の青年部。選挙の実働部隊。選挙は組合活動の一環。当然やることという認識。

座間宮　選挙が好きそうに見えるが・・生き生きとしている。

渡辺　そう？　確かに面白い。※近藤正道氏が参議院選挙に出たことがあった。共産党は乗らなかったが民主・社民・連合で共闘で勝った（2004年）。近藤正道さんが最初に県議選に出たのは1987年。そのときに「やってこい」と言われたのが後援会勧誘活動。近所に住んでる弁護士とかなんとか言ってやるが当然全然入ってくれない。60件くらいでいやになって、「一軒も入ってくれませんでした、すみませんでした」と帰る。するおｔ、「しょがねえな～。もう1回行ってこい」と言われる。次の週に 100 軒回ったら、1軒だけ入ってくれた。（物品提供もなしだし）入ってくれるなんて思ってないのに、「これは面白いな」と思ってしまった。ものすごく嬉しかった。感動した。

※近藤正道氏：
1987年、日本社会党公認で新潟県議会議員選挙に出馬し、初当選。県議を5期務めた後、2004年の第 20 回参議院議員通常選挙に新潟県選挙区から無所属で出馬し、初当選。当選後、社会民主党・護憲連合（参議院の院内会派）入りした。なお近藤は1997年には社民党新潟県連代表に就任しており、2004 年の参院選に出馬した時も党籍はあったが、民主党からの選挙協力を受けるため無所属で出馬し、民主・社民両党が推薦する形が採られた（新潟方式）。

事務局に入るようになったらもっと面白い。やりがいが出た。事務所にはお客さん、支持者、文句言う人などいろんな人が来る。それをうまく調整しながら、いかに1票でも多く自分が支持する人に入れさせるかという作業はやりがいがあると思った。

座間宮　調整という言葉が多く出たが、選挙は人間関係？

渡辺　そう。苦労が報われたとき、すごくよかったと思う。28歳からやっているので40年近く調整やっている。最初の10年くらいは鉄砲隊だったけど。

座間宮　鉄砲隊という言葉に時代を感じるが、今の時代には？

渡辺　なかなか今の若い人にはそういうことを求められなくなった。100軒なんか絶対無理だけど、20軒でも後援会活動行ってこいとは言いにくい。労働組合員が多様化。我々の言うことをあまり聞かなくなった。賃金上げるぞっていえば来るし動員にも参加するが選挙活動はいやがる。社民党支持組合は公務員が多い。自治体で働く労働者だから、すぐ「勘弁してくれ」となる。「公務員法に違反します」と言われる。「憲法で保障されている。どっちが上位法なんだ」と言っても「ええ・・・勘弁し

てくださいよ」となる。「しょうがねえなあ、ポスティングくらいだったらいいか？」と言うと「それぐらいならいいです。自分の住んでないところだったら」

座間宮　他の党もそういう感じですか？

渡辺　そう。共産党もそこはきつくなっているみたい。

座間宮　地区ごとで競争、ノルマみたいなものがあると聞くが、結局、若い人がいう事聞いてくれないとういのはいろんなところで聞いている。組織がしっかりしていた時代と今の時代の比較を伺いたい。会社組織や労働組合がしっかりしていた頃は投票率も高かった。上司に言われて何となく投票していた人も多い。今は上司などに言われて行ったという人はほぼいないのでは？投票率へも影響します？

渡辺　そう。自民党だって今回中央からきて締め付けても結局あまり効いてないのではないか。

座間宮　特にこの知事選での集票の落ち方。参院選では前回より 10 万票伸びたが今回は前に戻った。

渡辺　さあ？やはり締め付けがもう効かないのでは？

座間宮　自分も調整ということに関してはテーマ。去年 1 年間、選挙の勉強会では「選挙というのは人と人とをつなぐ調整の連続で、選挙はできてます。」と言ってた時期がある。ここで 10 票と 10 票持っている人をつなげたら、それがもっと大きくなったのが政党と政党の調整。地味な言葉だが選挙の本質と思う。

渡辺さんが今回果たされた役割は？

渡辺　参院選では、野党を結びつける調整役を一生懸命やった。森裕子さんが既に手を上げていたが、森裕子さんではまとまらないような感じ。民主党が「よしわかった」とはなっていない状況。野党共闘しなければ勝てないことはみんなわかっている。それで、連合は社民党は拒否しない（共産党は厳しいが）。連合会長は、先ほどの近藤まさみち選挙のときは青年部長。自分はそのちょっと上で一緒にやった仲。気心が知れている。斉藤会長と話をして民主党と三者協議をやろう。斉藤会長は大賛成というか、やろうぜというくらい。民主党の内山幹事長（自分より 2 つくらいの人で丁度いい）と 3 人で集まってどうやって戦おうと話し合った。「民主党が新潟の野党で一番でかいんだからお宅から出せばいい、いいのを出せば我々が調整する。森さんとも調整する」と言ったら「わかった」。幹事長だけでは心もとないので正式に代表者会議をやろう。社民党の代表と連合の会長、あの時は事務局長もいた、当時の民主党代表・菊田真紀子さん、内山幹事長。3 者の正式な会議で確認。菊田さんが「わかりました。うちが出します」。去年の 12 月までに出すという約束をされた。社民党としては、「三者は大事だがここにもう少し野党を増やしていかないとなかなか難しいのはないか。共産党も排除しないでいただきたい、森さんも調整して生活の党も一緒にうやりましょう」と、小山代表に言ってもらった。民主党は「わかった」とは言わないが反対もしない。連合は「共産党とはちょっとなぁ」と言った。社民党としては、「生活の党も共産党も」と強く言った。それは我々社民党がいなければできなかったと思うし、三者協議も社民党がいなければできなかった。調整役の要にいたと思っている。

座間宮　全国で社民党が接着剤をやるということは起きている。それが可能だったのは、これまでのいろんな全国的な支部単位でのいろんな共闘、選挙協力が積み重なってきてる上でそれが今、民主、連合と社民の関係があり、社共の関係もありという歴史があるからですね。

渡辺　特に新潟は民主と社民と連合というのは。近藤正道さんが参院選で勝ったときに共闘関係ができた。当時、新潟方式とよく言われた。あのときは全国的にはまだそういうのはあまりなかった。新潟が先駆け的な自負を民主党も連合も持っていたからすぐに三者協議という。

座間宮　今、データを見ながら話していますが、近藤正道さんは 2004 年の参院選で 42 万票を取った。二着が田中直樹さん（自民党）37 万票。近藤さんはその次の 6 年後の選挙は・・・田中直樹さんが民主党に来られて、中原弥一さんが自民党、近藤正道さんは無所属で残念ながら 20 万票。このときは・・

渡辺　結局、一緒になれなかった。あのときは民主との初めての連立政権。民主、社民、国民新党。沖縄問題が出て福島みずほさんが離脱してしまう。離脱する前は連合が「(あのときは定数 2) 民主から一人出ているが、社民系だけどいいかということで推薦してくれていた。離脱後は「見直そうかな」と言い出して、社民としては「ちょっと勘弁してよ」と誤魔化しながら最後まで一応いったが、そういうちゃちゃが入っちゃって 20 万票しか取れなかった

座間宮　なるほど、やっぱり中央の大きな政局がいろんなところに影響するんですね

渡辺　それでも 20 万票よくとったなという感想

座間宮　これまで連合の会長さんとツーカーできたということだが、連合という組織が市民からしたら謎めいているはず。政党はわかるけどそれを支持している団体っていったい何だろう。昔は民社党の同盟と社会党の総評が合体したといういろいろな経緯があるが、連合の会長というのは、総評と同盟から順番で出るのですが？

渡辺　最初の頃はどちらにも顔が効くような人。今でいうとＮＴＴが中央でもここでも最初会長をやっていた。電電公社から民営化になった。旧総評系だが同盟系でも嫌われてない。今の斉藤さんも電通。大体新潟はそうだし、全国も電通系だった。今は上は鉄鋼労連とか民間の、我々から見て右というか、ちょっと保守的な人がなっている。総評系と同盟系と順番ではなく、今は同盟系の人がなっている。上（中央）は。新潟は守っている。大体ＮＴＴがやっている。斉藤さんの前は僕の出身の高教組、鬼っ子。高教組なんか非主流。跳ね上がっている。闘う教祖なわけだから。県の中では主流だけれど、中央では反ではないが非主流。

座間宮　ずっと、地方の連合の会長さんが誰になるかによって相当選挙協力などに影響があるのかと思ってきた

渡辺　それは、少しはある。ただ、新潟でもＮＴＴが会長になっている、その前はたまたま適当な人がいなかったので高教組の人がけっこう長く会長をやったが、極端なことなどは全然できない。やはり旧同盟系の人たちに気を遣わないと運営できない。電力労連とか電気労連とかＵＩゼンセンとか。旧総評系であってもＪＡＭとか昔の金属労協とか運輸労連とか旧総評系の民間の組合であってもやはり気を遣ってやらなきゃいけない。どちらかというと公務員労働組合の方が総評系。気を遣ってやっていかないと、はっきり言って、同盟系は会長の足を引っ張る。強い要求を言ったり、協力しないとすぐ言う。

座間宮　僕の感覚だが、3.11 のあとは地方でも総評系の方が多いのでは？　斎藤さんも長いですよね

渡辺　4～5 年やっている。まだやったばかり。大体 10 年～12 年 13 年やる。その前の高教組の会長も 10 年くらいはやっている。

座間宮　いろいろお話伺って、連合の斉藤さんについて、三者協議をやろうかとか共産党を入れることに関しても様子を見ながら否定するわけではないという感じだが・・・

渡辺　同席はだめということは言う。たまたま一緒にいるのはしょうがないというスタンス。そういう点は非常にいい。

座間宮　それは連合をまとめるためには仕方ないことですよね。並んでは写真はだめだけど間に人がい

ればいいとか。

渡辺　端同士だったかいいとか、彼なりに気を遣って工夫してると思う。

座間宮　全国を回って、長崎は三菱造船がものすごく強い。昔は全部共産党だったのかな、途中で全部連合に変わっているという歴史があるよう。企業労働組合になった。今でもすごいバチバチと聞いている。車走らせてても、野党共闘やるという空気なのに共産党系の労働組合が囲んだり。今、政党レベルは共闘、協力しようとなっているが労組は「じゃ、協力しましょうか」とはならない。ここが一番大変なところかなと。

渡辺　大変なところ。労働組合が市民感覚から遅れている。政党の方から見ると労働組合は遅れている。

座間宮　イギリスの労働党とかアメリカの民主党とかでかい労働組合が一つで政党を支えている仕組みがあってわかりやすい。日本は政党支持が 3 つに分かれている。

渡辺　共産党ぎらいというか。それはわかる。89 年までは組合に共産党系の人いっぱいいたから。（そのときはまだ教員になっていなかったが）74 年くらいのとき、前の日までは一緒にストライキやろうやろうと言っていたのに、次の日になったら「やめよう。教師は聖職だ」。なぜかと思ったら赤旗でそう書いてあった。つまり 1 週間前とかの共産党のなんとか委員会でそういう風に方針を変える。すると下の組合員も一緒に変わる。みんなびっくり。お前ら共産党の言う通りにやるのか。お前らなんかと一緒にやれないよとなるわけ。それがずっと続いていた。そういうことを先輩から聞いて「やはりそれは信用ならんな。一日で言うこと変えるようなやつは。」となる。人間的には嫌いじゃない。酒飲めば別に悪いやつじゃないから酒も飲んだ。やっぱりそれがずっと続いて、89 年の連合が発足するときに共産党の方々が組合を割って出ていってしまった。そこが一つの転換点。僕らから見たら、割って出ていったわけだから。一種の裏切り・・・一つの組織としてまとまってれば大きくてちゃんとできるのに、それは組織を小さく弱体化することだから、それを非常に恨みに思ったこともあった。僕らは冷静に付き合ったが、民間の労組はもっと憎悪になる。「裏切者だあいつらは。弱体化するために出ていった」下手をすると当局と一緒な感じになってしまう。例えば、教組で言えば教育委員会と闘っているのに半分が出ていく、我々は弱くなる。県教組はなおさらやられる。文部省とか自民党とか。そうすると、こいつらは自民党を助けてるじゃないかとなる。それが民間なんかもかなりあって、経営陣と闘っているのに、お前ら裏切りもんだと。そういう思いが 89 年からずっとある。その前からずっとあるが、出て行って全労連を作ってしまった。それが 90 年代半ばくらいから反共主義のようになってしまった。

座間宮　今の反共主義というのは戦後間もなく生まれた反共的な感覚でなく、連合から離脱して生まれた反共？

渡辺　とういか、強くなったのではないか。前から、党のいう事を聞く組合員という不信感を徐々に持っていたこともあったし、一時戦後は火炎瓶闘争なんかやってたわけだから、共産党は。何だかよくわからない奴らだという思いは共産党に対して持ってたと思う。一緒にやりながらも。落ち着いてきたのにまた 70 年代あたりから変わってきて、急に教師は聖職と言ってみたり、ストライキなんかやっちゃいけないんだと言ってみたり、主任制もそう。中で校長、教頭、主任と層を作って分断していくという政策が文部省にあったが、僕らは反対だったけど共産党は「それもいいんじゃないの」と言ってきて、ほとんど共産党系の人と対立する、それがずっとあって 89 年にはっきりと「別れましょう」になっちゃって。僕らも共産党の人たちの言うことは何となくわかった。大企業中心、権力に阿る、そういう労働組合がでかくなったって意味はない、それは右翼的労働戦線。僕らも左派的観点

で同じことを言っていた。それは一致する。だけど今の日本にあっては権力が相当強くなってきてるんで、そこと対峙するには分裂は弱くなる。ここは中に入って変えるくらいの気持ちでいこうよというのが総評系左派の考え方だった。

座間宮　同じ方向を向いている。やり方違うけど。

渡辺　ところが今考えたときに、中に入って改革はできなかった。できてない。

座間宮　渡辺さんの総括？

渡辺　まさに相対的に右の方へ持っていかれちゃっているというのが連合に対する僕の評価。僕らはそれを決断した人間。みんなを説得して「残ろうよ、連合を作ろうよ」と言った側。今の状況を見ると自分の責任も感じる、あのときの選択が正しかったのか、共産党の言うように別れちゃった方がよかったのか、という思いもある。

座間宮　本題に全然行けないが重要なことがいっぱいある。例えば民進党も「野党間で野党共闘を進めるんだ、連合さんもそれに乗っかってくれるはずだというのがあると思うが、動く中で連合が非常に大きく揺れている。官邸ともつながって賃上げも一緒にされている二階さんに会長が呼ばれて会食。二階さんも上手。民進党が割れる割れないより、連合が割れる割れないということろに一つ重要なところがある。どうなるかわからないが。連合の中でも旧総評系の方はこれまでの活動を総括されている方も少なくない？

渡辺　そう。特に僕らはＯＢだからなおさら。やはり今、連合の幹部がものすごく取り込まれている。権力からすれば、あそこを分断すれば民進党も分断できるから一番いい方法。連合を取り込めば。連合の幹部が取り込まれているのは見え見え。どちらかというと、同盟系、電気、電力とか鉄鋼労連も（昔からそうだったが）、権力に取り込まれちゃって資本からの独立、つまり経営者から独立するというのが労働組合の基本でなければいけない、右であれ左であれ何でもいい。それが日本の場合は一緒になってしまう。賃上げなんかも首相から言われて喜んでる。恥ずかしい話だが、そういう風にやられちゃってることを何とも思わないような、ナショナルセンターと言っている連合がそうなっちゃってるのは、僕らからみると悲しい。やばい。

座間宮　アメリカのブルーバーグという経済誌が日本の経済について、賃上げ力が弱まっている、簡単に言うと労働組合の力が弱まっている、経済が健全になっていないと言っている。本当は労働者の圧力によって上がっていくのが正常な経済のあり方だが、政府が渋々やらなきゃ上がらないという状況。企業の労働組合になると賃上げ要請力がない。日本人は真剣でないのかな？アメリカの車業界で賃上げ要求したせいでクライスラーが潰れるとか、冗談みたいなエピソードもあるが、経済という面では当たり前のことが起きている。アメリカの方が社会主義的なものを大事にしている？

渡辺　そう思う。

座間宮　これから共闘を進めたときに、参院選は三者協議などがあって、年明け、共産党、生活の党を入れようと言いながらどういう雰囲気になっていたのか

渡辺　12 月になってもなかなか民主党が候補者をだせずに僕らもイライラ。共産党にも、森裕子さんにも僕らは非公式に話をした。みなさんどう考えているのか。共産党は野党共闘でなきゃだめだという考えにあのときだんだんなっていたから、(三者協議の方向性は) いいと思うという回答。「森さんと、民主党から出そうとしているが、皆さん方は出さないようにしますか？」と聞いたら「そうですね。そこは協力したい」ということだったので、共産党は乗ってくるんだなと思った。一方で、民主と連合には「新潟には小さいけれど新社会党もいる（うちを割って出ていったが)。緑の党もいる。これ

も入れてくれ」と言ったら、連合も民主党も快く受け入れてくれた。そうやって独自に話をしながらムードを作っていった。あとは、民主党から誰か出してくれれば森裕子さんとどっちがいいかで決めようという風に持っていった。

磯貝　市民連合も 11 月ころ？（社民党にも）「まとまってやってください」と佐々木先生が挨拶に来た。最終的にまとまらなくて 1 月 17 日に菊田さんと馬場さんと内山さんと、自分は水内？先生と市民連合側で東映ホテルで非公式に話をした。菊田さんは「絶対出しますから待っててください。」

渡辺　市民連合は各党に「まとまってやってください」と言っていた。それもやはり我々にとっては追い風だった。調整役としては非常にありがたい。市民もそういう風に要求してるんですよと言える。共産党もそれは喜んでいた。そうやってムードが高まっていった。ところが、1 月の中旬？（記憶があやふやで資料を探す）

ぼくらは 10 月 31 日に今回独自候補はやめよう、反自民無所属統一候補を 1 月中を目途に擁立しようと参院選を戦う社民党合同闘争本部で確認。その後、それに基づいて民主党を協議を続けていく。正式な社民、民主、連合の三者協議は 12 月 5 日。年内に民主党が候補者を擁立することで合意。社民党からは、共産党、維新の党の米山さん、意欲を示している森裕子さんのうち最も勝てる候補者を選ぶべきであり、候補者は無所属の塩野党統一候補と位置付けるべきいう事を主張。米山さん、出てましたね。

座間宮　そうなんですよ。新潟県は社民党以外全員手が上がってて、ここが一番野党共闘の試されるところだと。前回もバラバラでしたもんね。ここがまとまったらすごいなと逆にまとまるんじゃないかなと勝手に思っていた。

渡辺　共産党は西沢さんを降ろしてもいいという雰囲気は醸し出していたし、維新も米山さんは「皆さんの決定に従う」と言っていた。民主と維新はどうせ合併するから話はできてるんじゃないかなと思った。つまり衆議院 5 区の候補にするからお前降りろと言えば一発で降りるんじゃないかと思っていたので。問題は、森と民主だろうと何となく我々は思っていた。

座間宮　前回 3 年前も生活と民主で大激戦。2 万票くらいで。

渡辺　民主党は 12 月中に出すと言ったが、12 月 26 日に社民・民主・生活・維新・連合新潟、この 4 党＋一者で五者協議をやった。そのときに擁立決定できませんでしたという報告になってしまった。とにかく頑張ると民主党は言ったが、1 月中旬になってもまだア出してこなかったので、社民党は文書で「1 月中になんとか出してくれ」と要請した。市民連合も一緒にそういうことをしていた。にもかかわらず民主党は 1 月 23 日の県連常任幹事会で「この間、候補擁立に携わった党本部が事実上、候補者擁立を断念した」という事を確認する。結局、12 月あたりからっもう上に任せちゃった、「探してくれ」となげちゃってた。相当、いろんな人に当たっていたと思う。結局だめになって、1 月 23 日に党本部が新潟は断念したことを伝えたら、県連も「だめなんだって」で終わっちゃった。社民党としては、上に任せっきりも、上が断念したらそれで終わりというのもおかしいと思ったが、仕方ないと、民主党は擁立できないと判断した。それで、手を上げている 3 人、共産党、維新の米山隆一、生活の森裕子の 3 人の中でこれまでの選挙実績から最も自民党に勝てるのは森裕子だと。社民党は 23 日の決定を受けて 24 日には、森裕子で一本化するように他の団体にも呼びかけようと決める。連合新潟にも「森でいこう」と言おうとしたら、28 日に突然菊田真紀子さんが鞍替え出馬を電撃発表した。びっくりして、あまりにも遅出しじゃんけんじゃないかと思ったが。一応、新潟の場合は民主党の 6 人いる国会議員の代表なので、しかも連合は必ず支持するだろうから、方向としてはやむを得ないの

ではないか（社民党としては）。ただし菊田氏に一本化するのであれば森さんを降ろすための条件をきちんと整備してもらいたい、降りられる条件を付けてやってくれということを民主党に言おう。共産党にも丁寧に対応してくれ、石沢さんとう人を降ろすにあたって、ちゃんと頭下げに行ってくれと、謝って頼んでくれと。民主党は「わかった」ということだったが、そのあと全然、森さんへの対応は県連もやらないし上もやらなかった。例えば衆議院4区の菊田さんのところに森さんを立ててみんなでやるのが一番いい条件じゃないんですかなんてことを我々もちらっと言ったかもしれないが、そういうことは一切なかったようだった。だから森さんは手をおろさない、上げたまま。そのうちに中央で維新と合併することになり米山さんは衆院5区に回った。共産党は1本化すれば西沢さんを降ろすということはやぶさかではないと言った。しかし民主党は県連も中央も森裕子さんに対して何もしていないということで率直に言って不信感を持った。菊田と森を調整できなければ両者激突になるのではないかと、絶望的になった。そしたら3月10日くらいに民主党の内山幹事長から僕に電話があり、「3月13日に枝野幹事長が来るから会ったらどうか」「それはありがたい。私たちの思いを言わせてもらってもいいですか？」ということで待っていた。僕らに会ってから連合新潟の斉藤会長にも会うのが、小山代表と私で会い、「民主党にとっての最善の策は、参院選は森裕子、衆院4区は菊田で戦うことしかない」ということは率直に言った。「森さんは絶対に手を降ろさない。共倒れになりますよ」と。それから「菊田さんという代表を4区から出したあと、4区は誰をだすんですか？いないでしょ？」「一番大事な代表のところの地盤を切り崩すことになりますよ。民主党にとって大打撃。こんなことしてはいけません。」「これは絶対だめだから、逆にするのが一番いいんです。戻しなさい」と率直に言った。枝野さんは「そうですね。できるだけ検討させてもらいます。できるだけ早く結論出します。」ということで持ち帰った。そのあと、連合新潟も私と同じことを言った。それで17日に菊田さんを衆院4区に戻すことを本部で決定する。社民と連合の提言は聞いた。そこでは社民も連合も貢献したと思う。それで森さんへという流れができた。民主党県連は20日に常任幹事会を開き「本部が戻せというので戻します」。そして内山幹事長は提案した。「森さんでいこうよ。」しかし、また反対。

座間宮　相当しこりがありますから

渡辺　「あの人は勝手に出ていった人だからだめだ」という意見がいっぱいあって決められなかった。それでまた時間が経っていくのだけれども、僕らもサジェスチョンしたし、内山幹事長も推していた。内山幹事長というのは、森さんと菊田の両方の選挙の面倒を見てきた人。事務局長として。お父さんのような存在だから、「森裕子さんに、1区から6区までの代表を、国会議員だから、回ってくるようにしたらいいんじゃないか、あんたからも言え」ということだったんで「わかった」。回らせた。頭を下げてこいということ。そういうことをやっているうちに何とかなるのではないかと思っていたが、一向に進展しないまま、今度は民主党が民進党に変わって、（それぞれの県連も）代表が変わるわけ。そっちの方が大事だとか言って、森裕子のことなど後回しになってしまう。それで僕らも焦って連合の会長に泣きつく。「会長、このままぐずぐずしてたら森裕子も決まらないよ。選挙終わっちゃう。7月10日じゃないか」。会長も「そうだな、これはよくない、俺はそこをちょっと頑張るよ」ということで、民進党に変わる直前に、黒岩さんに変わるということは大体わかってたんで黒岩さんに直接談判して、メーデーが5月1日ではなく4月29日だったが「黒岩さん、メーデーまでに決めなかったら民主党はメーデーで挨拶させない」と言った。

座間宮　すごい。胸熱。そこまで・・・

渡辺　それで慌てて決める。4 月 24 日。

座間宮　連合の斉藤さん、かなり男を見せてますよね

渡辺　27 日に共同記者会見。ドラマチック。最後に民進党に決断させたのは連合の斉藤さんの一言だと思う。

座間宮　3 月に一旦方針は決まっていたのに、なんにもないまま２ヶ月伸びた

渡辺　森じゃいやだという感情的なものがあったんで、決まらなかった

座間宮　いいにも悪いにも、民進党って素直なところが表に出ちゃう党ですよね。戦略を考えると、それちょっと・・ってなるけれど、子どものような、わがままで。

渡辺　手上げたり下ろしたり、斉藤さんがいなければ。社民党だけではなかなか厳しかった。民進党に移行する、ごたごたしている、そこへ我々が乗り込んでいって「お前ら何やってんだよ」というとまた「社民党うるせいな」ってことになる。斉藤さんが言ったから聞くわけ。

座間宮　ここからは森さんに決まってどんどんいくわけですね

渡辺　やっと。選対構成つくるに当たってまたひと悶着あって。今度は民進党もＯＫしたわけだから、民新、社民、共産、生活、緑、新社・・・６つ、市民連合

磯貝　連合をそこに入れた

渡辺　そうだ、６党プラス２団体。８つで協議していた。

座間宮　そんな大勢で！　普通はそういうのはうまくいかない条件のような気がするんですが・・・

磯貝　やりましたよ

渡辺　すったもんだしてここまで来たから何とかなるかと思ったが、心配したのは共産党と席を同じゅうせずという考え方を民進党も連合も持っているし、準備会は席を同じくしても選対となったときにどう出るかが読めなかったが、やはり民進党はいやだと。連合も右ならい。しょうがなく、この辺は意外と僕も考えた、連絡調整会議というわけのわからんのを作った。その前に・・・

磯貝　市民を代表としてそれを抱えるからそこに乗ってきませんか？というアイディアだった。

渡辺　そうだ、「オール新潟平和と共生」を作って。

磯貝　佐々木先生が代表になって

渡辺　あんたがたも代表でなかった？

磯貝　そうです。共同代表で３人

渡辺　非常にすばらしい３人が、ちょうどなってくれた。佐々木先生、磯貝、水口。非常にバランスよく、女性が一人いるし弁護士がいて学者がいると。この船をつくり、「その船に乗るのはいい」とみんな言った。船を漕ぐ集団としては選対がいるので、選対を作ってみんな入ろうぜと言ったら民進党と連合はいやだと。じゃあどうするんだと。じゃあ選対という名前をやめて連絡調整。連絡調整は必要でしょ？と。それならいいと。

磯貝　それがギリギリよかったんですよね

渡辺　それが選対の代わり。

座間宮　外から見てるとわかりません。市民連合というのがあって、それが、みんなで集まる「オール新潟平和と共生」になり、そこは民進党も共産党も入るわけですか？

渡辺　入る。船の乗組員としては。

座間宮　漕ぐときには一緒に漕げないみたいな？そこらへん、ちょっと難しくてわかりにくいですね。それとまた別に連絡調整会議を作ったんですか？

渡辺　漕ぐのはほんとは選対。つまり事務局。選対事務局。そこには残念ながら、民進党は出せないというわけ。

座間宮　とうことは、選挙は実質的には誰がやったんですか？

渡辺　その前に、選対会議事務局会議を作るのは乗れない。ただ、連絡調整会議には乗る、というのを先ず決める。「オール新潟平和と共生」の連絡調整会議を必ず開く。これは選挙期間中毎日やろう。あれには連合も民進党も出てくる。民進党は幹事長が出てきたし、連合は事務局長。それでも不十分なので、僕が連合のＯＢを引っ張ってきた。しかもその人は完全にこっち系のＯＢ。全農林。仲間の公務員組合。その農林省の組合の中央の委員長だった人で。すごい人。中央の連合の副会長をやった人。ほんとはえらい人。それでこの人がこっちへ帰ってきていた。僕は好きな人、尊敬してる人。丸山さんというが「丸山さん、あんた連合の副会長だったじゃないですか。助けてください」そしたら「わかった」と、もう一発で。

座間宮　この人、相当いろんなとこに目が効くのでは？　中央にも

渡辺　そう、連合にも民進党にも

座間宮　農業関係者にも？

渡辺　農林省だから、そっちにも。最高の人。年齢は 70 ちょっといってるので重しが効く。その人に、連合の会長とか事務局長の代わりに選対に入ってもらった。連合からは入ってないけど、連合ＯＢが入っていたら、まあ、連合が入っていたようなもの。

座間宮　選対事務局に入っていただいた。

磯貝　それで入りやすくなって、各党から入っていたし、あとから二人くらいいらっしゃってた

渡辺　たまに。

座間宮　連絡調整会議にはみんな入っていたけど、選対事務局には？社民、

渡辺　社民は二人しかいないから今回は入れなかった。自分のところも参院選があったから。残念ながらうちは勘弁してもらった。

座間宮　ということは？

磯貝　選対は市民が作りましょうみたいな形を見せた。佐々木先生を代表において、みんなでやるから。でも連絡調整がその下にあったじゃないですか

渡辺　実務がいないと回らないから。実務はすごい。共産党から二人、生活の党の森裕子の秘書たちが 3 人来て、会計も森裕子のところ、新社の委員長、緑の人、でも実際にやってくれたのは、丸山さんという連合ＯＢ、共産党の川俣書記長、新社の小林さん、緑の中山、この４人がやった。

座間宮　そこから知事選に繋がる流れがようやくわかってきましたよ。じゃあ、そこでできちゃうじゃんっていう。そんなにこう、民進党が自主投票って言って、直接かかわってこなくても、同じじゃないかって。

渡辺　確かにね。民進党は普段はいないわけ。

座間宮　外にいながら外で選挙やってる？　すごい！他の地域とは・・・、ちょっと沖縄に似てますね。沖縄も、社民、共産、沖縄社会大衆党の 3 党で革新の統一候補をずっと作ってきた流れの中で、今、自民がきたので、革新は革新でやりながら、自民に・・保守に気を遣いながら選挙をやるというやり方なので、保守を民進党に置き換えるとけっこう似てる構図になってくる。民進党は民進党なりにやりやすいようにやってくださいねということですよね。うちは共産党関係ないんですけど、と言いながら選挙やってもらえばいいという形を作っていくということですね。都合をいろいろ調整していく

と、自然にそうなっていったんですね。僕は仮説を立てていて、新潟県知事選が終わったときに、民進党以外で選挙をやりながら、民進党が外側で走り回るというのが一番やりやすいんじゃないかという風に勝手に思っていた。知事選であれば公認関係ない世界ですから、比例も関係ないしやりやすいですね。参院選はみんな我慢して無所属でということでやりましたね。衆院選になった場合、全部それで組むなどできないわけですから、全く違う課題が衆院選にはあるということですよね。で、参議院選挙は森裕子さんが 2000 票差で勝ったということだが、2000 票差で勝つということは元々野党の基礎票の合計では相手を上回ることが明らかで、どうやってそれをきっちり固めるかという戦略になっていくわけですよね。しかも新潟は広いので組織選挙をしっかりやるというのが根底にあると思う。都市部とは違う。その中で 58 万ラインを目指したら 56 万くらいまで固まったという認識で間違ってないですか？

渡辺　間違ってない

座間宮　相手の自民党ですけど、46 万くらいかなと思っていたら、ほぼほぼ同じ票まで取ってきましたよね。あれは予測してました？

渡辺　投票率がちょっと上がるんじゃないかと思ってたんで増えるとは思っていたが、10 万票までは予測していなかった。

座間宮　どのようにして 10 万票増やしたかという情報は入ってきてますか？

渡辺　あまり入ってないが、総力戦でやったのだろう、本部からも 3～4 回入った。何が起きたのか調べられていないが、新潟市内の得票率が伸びているが、10 万票ってなかなか掘り起こせる票じゃないですよね。

渡辺　中原さんは新潟西区の内野地盤で父の代から。相当票は出るなと思っていた。新潟は全人口の三分の一もあるわけだから新潟市を押さえると相当強い。故郷の内野を起点に相当伸ばしたと思う。上越とかでは知名度が低いので、新潟市で相当梃入れしたと思う。

座間宮　野党がまとまったら勝てるかなと思ったら薄氷を踏むような 2000 票差。選挙をやっている最中というのは、どちらかというと追われる立場としていやな思いはしました？

渡辺　いや、追ってる立場。こういう野党共闘など初めてだし、僕は事務所にはいなかったが「勝てるのかな」と正直なところ思っていた。

座間宮　最初、自民が優勢と出たんでしたっけ？そして森さんがぐ～っときたと。

磯貝　背中が見えてきたという感じ

座間宮　なぜ、いつも自民が先行という展開になるのですか？　やはり組織への浸透ということですか？

渡辺　やっぱり自民党は強い。県会議員が 34 人もいる。市会議員もいて、当たり前。その人たちが、我々クラスの運動をすれば、本当はもうちょっと増えるべきなのではないかと思うが。運動のやり方が僕らと違うのかも。僕らはこういう選挙のときにも市会議員とか、支持者を一軒一軒回らせる。自民党は多分回らせないのではないか。

座間宮　企業回りはするけど

渡辺　ほんとの一人ひとりの市民のところへは行ってないんじゃないかという気がする。

座間宮、前に佐賀県知事選挙で調べたのだが、結局佐賀ではそういう一つひとつのところは農協がやってた。特に佐賀県は全国でも農協が強いから、しっかり政治活動をやって手足になっていた。新潟でも自民党の足腰は弱ってきているはずなので、ほんとはそこを補完する農協とかいろんなのががある

はずなんですけれど、意外とそこらへんもその雰囲気で自民にそれほど積極的にやらないのかも。

渡辺　土建屋さんだってそんなに手足になっていない、今は。なるほど、手足が動かないのに自分も動かない。うちらは自分が動く。手足いないから。労働組合も今だめだから。市会議員、県会議員は動くのが商売みたいなもの。ほんとは。そう言われれば自民党は最近手足がいなくなった。じゃあ自分がやればいいと思うが。

座間宮　有権者一人ひとりから

渡辺　そう、一人ひとりからもらわないと。

座間宮　次、知事選ですが、さきほどの「オール新潟平和と共生」という組織を軸にし

渡辺　「新潟に新しいリーダーを誕生させる会」と、名前だけ変えて。

座間宮　スタートから運動がそのまま持続して、勝っているからムードいい。しかも選対の中は元々民進党がいたわけではなく、同じ組織のまま動けていったわけで。そこで私は全く見誤った。全く違う選挙と思っていた。選対としてはほぼ同じ運動体で、民進党は自主投票なのか推薦なのかという違いはあるわけですけど、運動体としてはほぼ同じ。戦略としては森裕子さんの票を目指すということですか？

渡辺　そう。だから法定ビラ 1 号を 80 万枚。

座間宮　森裕子さんの顔がどんと載った？

渡辺　あれは 2 号。あれは 60 万かな。80 万、60 万というのは 60 万票取りたいからそういう数にした。

座間宮　選対本部長も森裕子さんでしたし、森裕子さんの票を取りにいくぞということだったんですね。そのときに、これは核心に迫るところですが、原発をある程度大きな争点として掲げるときに、なぜそれを争点にしたか。僕の中では、世論もそれはある程度大きくなっているだろう、原発直後よりも、泉田県政の中で原発やだなという世論はある程度大きくなっているだろうというのが一つ。あと一つは、それを掲げた方が政党間が「原発はいやだよね」という政策でまとまりやすく、運動も落ちないというような狙いがあったように思うんですけど、原発に関する政策というのはどういう意味で作ったのでしょうか？

渡辺　一点目にかこつけて言えば、泉田さんが辞めたこと。辞めたことに対する受け留めは、「これで原発はどうなるんだろう」というのが多くの県民の意識。不安。泉田さんが一生懸命慎重論で、具体的には反対ということ。検証がなければ議論もしないわけだから、議論をしないということは先へ進めないわけだから、これは非常に強力な反再稼働。それがいなくなっちゃった。それに対して県民は非常に不安感が強くて、その充満度はなんとなくわかる。ビンビン来てる。だからここで原発再稼働問題が争点になるのはわかってる。

座間宮　泉田さん自身もそうしたいんだけどできないというのがありましたよね。

渡辺　そう。みんなそれを受け止めてくれている、県民は。そこに火をつければいいだけだから再稼働問題を最大の争点にしなければいけないし、自然に「しようよ」になる。

座間宮　その県民の意識のリサーチというのはどのようにして行われる？　メディアの世論調査？

渡辺　ではなくて、日頃の、僕らの組織はいろいろな地域にもあるわけだから、共産党もあるし、日頃の市民との日々のふれあいの中でそういう世論を探る、というか肌感覚。

座間宮　そればかりはここに住んで生きてないとわからないですね。外からでは数字しか見えませんね。

渡辺　僕ら金がないから世論調査なんかできないんで、人との付き合いとか各支部の党員たちの考え方とか、我々と意見交換しながら探っていく、そういう形で掴むしかない。

座間宮　参議院選挙のときには絶対原発言わなきゃいけないっていうムードでもないですよね。
渡辺　ないです。
座間宮　なるほど。泉田さんが辞めるとなったときに急にそれがわっと。
渡辺　だから、僕ら、候補者を擁立しなきゃならないというのは、その、そういう世論がもう、「わあ、泉田さんがいなくなったらどうしようか」。特に原発心配している人たちはどうしようかどうしようかと思っていることが何となくわかるんで、絶対出さなかったらこれはもう大変なことになる。恥ずかしい、政党としては。死んでも出そうぜという思いを僕ら持ってたし。
座間宮　米山さん擁立までのスケジュール。（泉田さんが）最初は出ると思ったら急に撤回されて、古賀茂明さんの名前が出たりとか若杉れつさんの名前が出たりとかいろいろありながら最終的にゼロになってしまって、そしたら、これはもう話題の、連合が森民雄支持という流れになっていったわけですね。誰もいなくなったときに、じゃあ森民雄さん支持しようかということになったという、ここで結構いろんなことが起きてたという、この日、前日あたりということですね。こないだ取材でお伺いしたのは確か、米山さんの名前上がってるんですね？
渡辺　その前あたり。
座間宮　その米山さんの名前が 1 回上がって、米山さんでいこうかという話になりながら、民進党で米山さんでどうだと、話し合ってくれという風にみんなが言ったんですが、民進党は米山さんでＧＯというどころかそれを話し合いの俎上にもあげなかった。で、米山さんの名前が消えていった。翌日に連合が森民雄さんを支持するという流れになったわけですよね。
渡辺　だから連合の会長にしてみれば「ふざけんなよ」という思いだと思う。つまり、前日、議題にしてくれれば、当然、賛成論もあれば反対論もあるだろうし、本人はどうなんだよとなるわけ。本人を呼んで本人の前で「3 党があんたでいいよと言ってるんだけどどうしようかね。俺らは迷うけどどうしようかね」と、みんなで議論してね。本人の意見も聞きながらそこで、知事選対策委員会だから 10 人くらいかな、わからないが、その数人の中できちんと議論をすれば、ひょっとすると「じゃあ米山でいこうか」となったと思う。だって、僕らの他に 3 党も一緒にやってもいいと言ってると、で、本人もなんかいいみたいだと、「だったらやろうよ。」普通そうなるが、それが議論さえされなかったということが非常に悔しくて、それは、連合の会長はもっと悔しいと思う。それ決まっていれば、連合はすんなり米山でいい。推薦決定になる。
座間宮　議論が俎上に上らなかったために全く知らないまま連合は森民雄支持を決めたということになるんですね
渡辺　決めざるを得なかった
座間宮　表で見てると全くわからない話だった。これまでも連合は森民雄推薦出してきたし、まあ支持くらい出そうかなくらいに思ったんですが
渡辺　しかも中央のどこかの新聞なんて、電力総連に言われて連合が民進党に働きかけた結果、民進党は出さなかったと、そういう風になってる。それは全く逆で嘘。
座間宮　嘘ですよね。びっくりしました。連合の斉藤会長がそれを知ったのはいつなんですか？
渡辺　いつだったかな。米山さんでいくよと僕が仁義を切る頃。行ったのが 17 日。皆さんに協力してもらって、あれ、出すわけだ、幹事会の前に。18 日が 17 日あたりに連合の会長に一応仁義切りましたわ。3 党で米山でいくよと。悪いねと。で、彼は「う～ん、ま、しょうがねえな」と。「それはほんとは困るんだけどな」とか言ったんだけど、「「ま、しょうがないから勘弁」と。そのときは詳しいこ

とは教えなかったんで、その後だから、多分、記者会見が 23 日だから、その後だったかも。

座間宮　連合と民進党の亀裂が入ったというのは、ただ別々で支持、自主投票になったのではなく、なんで教えてくれなかったのか

渡辺　私がそのことを連合の会長に伝えて、激怒したんですけど、その前もなんか米山さんを止められなかったわけで、連合が衆院 5 区から米山さんをちゃんと推薦しているわけ。なのに何の話もなく結局だめになっていくわけで、そういうことに対しても彼は頭にきていた。米山を出させてしまったと。よその党の人たちとか市民が押し上げて出されちゃったと。それを止められなかったことも彼にしてみれば、おかしいと。

座間宮　それはそうでしょうね

渡辺　だって、5 区支部連合の会長ですよと。しかもそれは連合が推薦した人ですよと。じゃあ何でそれを止められないんですかと。いうことの思いが前段には彼にはあった。それはマグマのようにあったんだけど、僕が本当のことを教えたときに、彼は「ああ」となる。

座間宮　あと、以降、黒岩さんの出入り禁止というのがありましたよね

渡辺　そう。

座間宮　それが報道されたのはいつでしたっけ？

渡辺　報道はちょっと遅かったかな

座間宮　結局、いろんなものがあるけれども、13 日に集約されてますもんね。

渡辺　そう。13 日がすべて。

座間宮　そのあと民進党本部も野田さんが謝罪に行ったりとかいろんなことありましたよね。非常に重要なのは、じゃあ、民進党抜きの 3 党含めてみんなで米山さんを担ごうと思ってるんですけどということで、米山さんも党の本部に頭を下げて仁義を切りに行ったことがありましたよね。おそらく党の本部にも協力してくれという働きかけをしたと思うんですけど、枝野さんなどが「じゃあ、県の方に働きかけるよ」というような動きもありながらそういう風に動いていったわけですね

渡辺　そう。枝野さん、岡田さん？に事情を説明して「自分はやっぱり出なきゃいけなくなる」ということは言ってると思う。「申し訳ないけど、何とか上手にしてください」と多分お願いしたと思う。それに対しては「あんたがやりたいというならしょうがない」と。でも、自主投票を決めたみたいだから後ろから羽交い絞めにして止めるようなことはよくないよというようなことくらいは伝えたいけど、でもあなたもまた向こうへ帰ったら、よく話して県連の彼らの顔も立てながらやらないとだめだよ」ということは言ったらしい。

座間宮　次の選挙にもずいぶん影響することですからね。野田さんが最終的に県の連合レベルに謝りに行ったというのは、いろいろ考えてみると 13 日のことに集約されていくということなのかなあと。足並みがそろってないというお話じゃないですか。本当は足並みが揃った可能性が 13 日にあるわけですよね。

渡辺　そのことは多分知らないんじゃないか、民進党の本部は。

座間宮　いやあ、大変ですね、この放送ちょっとね。大スクープけっこうあると思うんですけど。ここでそういうことを言って誰かをあげつらいたいわけではなくはなく、結果としていい選挙、望むべく最高の結果にはなっているわけですよね。このあと気を緩めることはなく、この形のままではうまくいかない衆議院選挙。3 党だけではなく民進党もしっかり表で頭を張って頑張っていかなければならない衆議院選挙の方に向き合っていくわけですけれども、そこで、例えば黒岩さんにしても、勝って

もらわなければいけないわけですよね。期間がどれくらいあるかわからないが、どのようにして関係の修復とか、今後どう進んでいくかというお考えをお聞かせいただけますか？

渡辺　ずっと言ってきたように連合の会長に不信感を持っていない。むしろ今回の知事選は被害者だと思っているし、参院選は彼がいなければ森裕子統一というのはならなかったのではないかと思いますし、そう点では連合の会長、ものすごく大きな役割を果たしてきている人なので信頼している。だから彼とも「知事選終わってからまた三者協議やろうね」と言ってます。まずここを基本に連合と民進党と社民党できちんと意思統一しながら選挙態勢を作ろうと、もちろん僕らも野党共闘が大事だと思っているし、ただ衆議院選挙のやり方は、中央本部ではみんな住み分け論の方が強いみたい。そういうことから言うと新潟は住み分けがなかなかできなくて、5 区以外は全部、民進党の現職・新人がいますので、つまり社民か共産から出せるのは 5 区しかない。ということなんで、どういう風にやっていくかということはあるが、裏返せば、民進党にしてみればものすごい大事な選挙ですよね。彼らが本当に積極的に我々に働きかけてきて、やっぱり頑張ろうね、協力してねと言ってこないと、なかなか、住み分けであれ何であれ、共闘はうまくいかないと思う。せっかくこういう風に参院選、知事選と流れてきて、衆院選は確かに性格は違うけど、やっぱり一人を勝たせなきゃならないってことは考え方同じなわけで。しかし、自分たちの候補が既にいるということが今までとは違う。みんなで見つけるのではない。そうなると、皆さんに相当頭を下げながらやらないとだめだと思うし、それをやってくれれば社民党は全面的に応援したいと思っているし、共産党だって、思いは同じだと思う。

座間宮　共闘の組織も全県にしっかりありますからそのままそれを生かして選挙もできますね。面白い。6 のうち、5 取ったらすごいことになりますね。5 区だけはまだ情勢が見えませんけど。新潟県の状況を皆さんにご理解いただけてすごい嬉しいです。すごい面白い選挙の枠組、選対の立て方からもすごく学ぶことがありましたし、また鍵を握るのはひょっとしたら斉藤さん（連合新潟会長）かもしれませんね

渡辺　そうです。新潟の連合会長は非常にがんばったと思いますし、我々はそこを大事にしていきたいと思います。